

## 令和6年5月定例記者会見

令和6年4月30日（火）午前11時～

### <主な発表項目>

#### ○ 「2024となみチューリップフェア」等について

「2024となみチューリップフェア」が4月23日(火)に開幕した。

開幕日には、新砺波市誕生20周年記念式典を挙行し、富山県知事をはじめ、県内すべての市町村長にお集まりいただいた。地元議員や行政委員の皆様など約700名の方にお越しいただき、20周年記念シンボルマークや砺波高校美術部に協力いただいたオリジナルTシャツの記念表彰等を行った。

4月25日(木)から27日(土)までの3日間、加盟8市町から約200名、本市を含め約300名が参加し、フラワー都市交流連絡協議会砺波市総会を本市で11年ぶりに開催した。

砺波ミュージカルキッズや認定こども園などの演技や歌の披露もあり、砺波の元気を全国に発信することができ、来場者からも大変好評であった。

庄川遊覧船チューリップクルーズの乗船を機に、道の駅庄川を紹介したところ、参加者の多くの方々に土産品を購入いただいた。能登半島地震に伴う「北陸応援」とともに、砺波の経済活性化にも大きく貢献をいただき感謝している。

「2024となみチューリップフェア」の開花調整については、2月は気温が高い日が多く、昨年よりも12日間早く遮光ネットを設置したが、3月に入ると一転して気温の低い日が続いたことから、調整が順調に進み、開花率7割で開幕し、4月28日(日)に満開を迎えた。4月28日(日)はゴールデンウィーク前半の3連休の中日であり、好天にも恵まれたことから50,000人の来場者で賑わった。フェアの来場者数が順調に推移しているのは、チューリップの開花状態が良いことに加え、天候に恵まれたことはもちろんのこと、テレビ局・新聞各社に積極的に情報発信していただいたおかげと感謝している。

開幕日の式典には、県内外から多くの方々にご臨席を賜り、式典に花を添えていただいた。

入場者数は4月29日終了現在で、累計152,000人。うち外国人の団体が4,000人であり、台湾からの予約が約8割を占めている。台湾について多い外国人はインドネシアであり、ランドオペレーターにセールした結果であると考えている。

フェア後半の見所として、開幕後は強い風雨の影響を受けなかったことに加え、今回は円形花壇とともに大花壇でも花の咲く時期の異なる混植を実施したほか、芯切りも行っていることから、会場全体では花の見頃が続いている。特に、歓迎ディスプレイやチューリップスカイウォーク、花の大谷の外側は、花の入替えが終了し、本日の閉園後に花の大谷の内側の花の入替えを行うことから、5月からはリフレッシュしたチューリップでフェア後半を迎える。

交通については、シャトルバスの乗車人数が昨年より増加しており、イオン線の大幅な増加は、昨年改善した交通誘導方法が定着した結果と考えられ、交通渋滞の解消につながっている。

砺波駅線については、公共交通を利用した来場者が昨年より増加しており、北陸新幹線敦賀延伸開業及び県内・近県へのマスコミへの情報発信やキャンペーンの効果と考えられる。

フェア終了後の5月6日(月・振休)から12日(日)までは、会場内の片付けや仮設等の撤去のため公園の一部は閉園する。閉園中でも、チューリップ四季彩館では10,000本のチューリップをお楽しみいただける。

5月2日から最終日5日までは晴天の天気予報であることに加え、暦まわりも恵まれていることから、昨年に比べ1日短い会期ではあるが、目標の30万人を超えるのではないかと期待している。

4月23日(火)から24日(水)にかけて、昨年、試験球を提供した台湾の「杉林溪(サンリンケイ)遊樂事業股份有限公司」から7名がチューリップ公園の視察と本年度の球根購入の商談のため砺波市を訪問された。希望された12品種について今後詳細を調整する。砺波の質の高い球根と高い技術力が評価されているものであると考えられる。このほか、観光協会のチューリップグッズの試験販売をすることについても調整を行う。